

小中一貫教育だより

今年度3回目の「小中一貫教育の日」

1月28日(水)に今年度3回目の「小中一貫教育の日」が開催されました。今回は、6年生が第一中学校での授業体験をメインに行いました。授業体験の後は、4校の教員で本年度のまとめとして、子どもたちの9年間の学びをどう繋いでいくか、各校の取り組みと成果を共有しましたので、その内容をご報告します。

6年生の中学校授業体験 ～一足早く中学生の気分に～

当日は、学区内の小学校6年生が第一中学校を訪れ、中学校の先生による授業を実際に体験しました。小学生が第一中学校に到着すると、生徒会の生徒たちと先生方が出迎えてくれ、教室まで案内してくれました。最初は緊張した面持ちの子どもたちでしたが、いざ授業が始まると、中学校ならではの専門的な学習内容にも意欲的に挑戦し、楽しそうに活動する姿が随所に見られました。

授業後、6年生に話を聞いてみると、「50分があっという間だった。」「中学校のイメージがもてた。」という声が聞かれました。先生方からは、「学習内容は高度だったが、小学生たちが非常に一生懸命に取り組んでいた。」というお話をいただきました。こうした経験は、中学校への不安を期待に変える大切な一歩となります。3月には中学校の教員が各小学校を訪問し、一人一人の状況について詳細な情報交換を行うことで、4月からの新しい生活への安心感のある橋渡しを進めてまいります。

分科会と全体会での共有

児童の授業体験に続いて、4校の教員による「分科会」と「全体会」が行われました。「学力向上」「生活指導」「はちおうじっ子サミット」「特別支援」の4つの分科会に分かれ、この1年間の成果と次年度に向けた課題について、意見交換や共有をしました。

その後の全体会では、それぞれの協議内容を全員で共有しました。そこでは、学校ごとの活動を点として終わらせるのではなく、第一中学校区の全教員が「9年間の連続した学び」という一つの線で繋がることの重要性が再確認されました。

《はちおうじっ子サミット分科会》

- ・活動を単発のイベントで終わらせるのではなく、年間を通じた計画的な交流にすることや、Google Meet等のICTを活用して日常的に顔が見える関係を築く工夫などが話し合われました。

《学力向上分科会》

「基礎学力の定着」や「生活習慣の確立」に向けて、各校が取り組んでいる工夫も報告されました。

- ・学習の工夫：第一中では水曜朝の「100マス計算」や放課後の演習、大和田小では「モジュール学習」や補習、第八小では独自の「八小テスト」、高倉小では家庭学習強化ウィークへの注力など、各校の特色ある活動が成果を上げています。

《特別支援分科会》

- ・生活の基本：中学校からは、学習の土台として「結び(蝶結び)」や「名前を漢字で書く」「忘れ物をしない」といった、小学校での丁寧な生活習慣の育成が、中学校生活を支える大きな力になることが伝えられました。

《生活指導分科会》

・【重要】 SNS・スマートフォン等の利用について

生活指導の協議では、SNS トラブルの低年齢化（小学校4年生頃～）が深刻な共通課題として挙げられました。

・家庭でのルール作りを：LINE グループでのトラブルや、Chromebook 等のドキュメント機能をチャット代わりにして深夜までやり取りする事案が発生しています。

・保護者の管理責任：トラブルを防ぐためには「持たせる以上は保護者が責任をもつ」という姿勢が不可欠です。お子様の安全を守るため、今一度ご家庭での利用状況の把握とルールの徹底をお願いいたします。

1年間の最後に

本年度、この「教育だより」の発行により、保護者の皆様の小中一貫教育への理解が深まったという手応えを感じております。「この学区の子どもたちは、どの学校に通っていても自分たちの教え子である」という共通認識のもと、今後も4校がしっかりと連携し、子どもたちの健やかな成長を支えてまいります。



▲授業の様子



▲分科会（はちおうじっ子サミット）の様子



▲全体会の様子